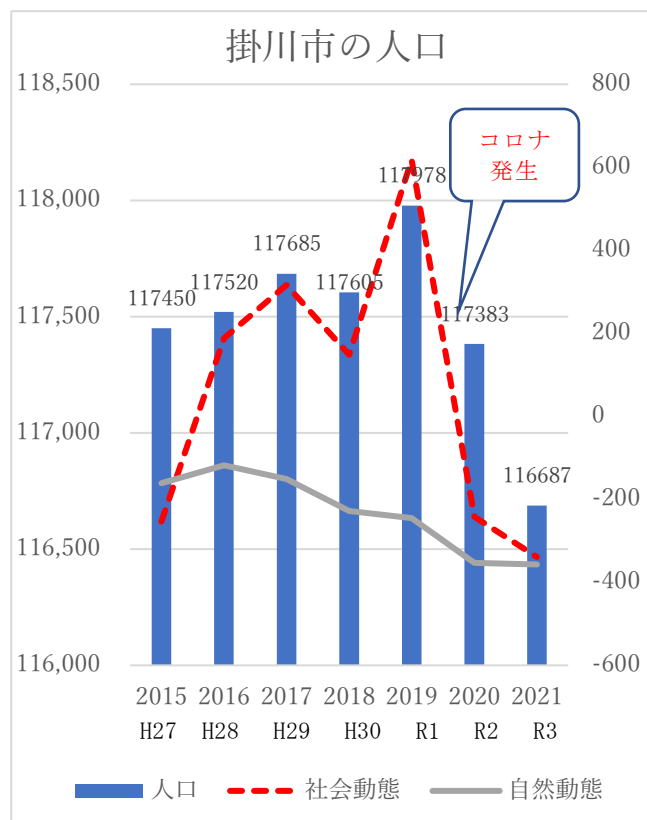


## 掛川市の目標人口について

## 1 将来人口の見直しについて

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の長期化により、掛川市においても生活環境や労働環境が大きく変化し、人口についてもさまざまな影響を受け減少傾向となっている。特に、市内の産業活動の縮小に伴い、日本人・外国人とも社会動態の人口減少が顕著となっている。

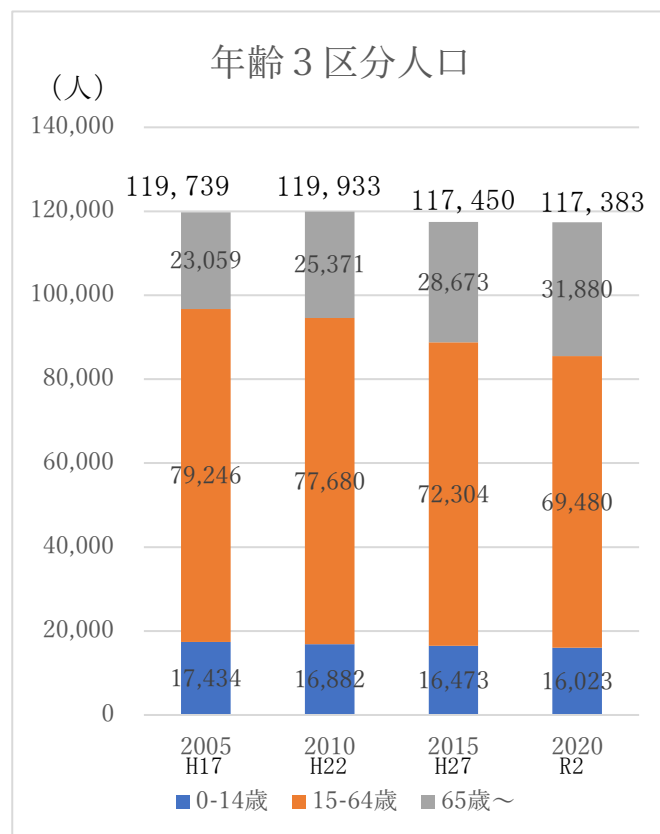
そのため、掛川市の新しいまちづくりにおいては、コロナ前からこれまでの動向を鑑み、コロナ後の社会において、自然動態と社会動態の双方の増加を目指すため、重点的に進めるべき対策の方針を明確にし、目標人口を定めていくものとする。



人口は住民基本台帳 3 月末、動態は 3 月末の年間

年齢 3 区分人口の割合

年	2005	2010	2015	2020
0～14 歳	15%	14%	14%	14%
15～64 歳	66%	65%	62%	59%
65 歳～	19%	21%	24%	27%



人口は住民基本台帳 3 月末

## 2 コロナ禍の現状と今後の方針

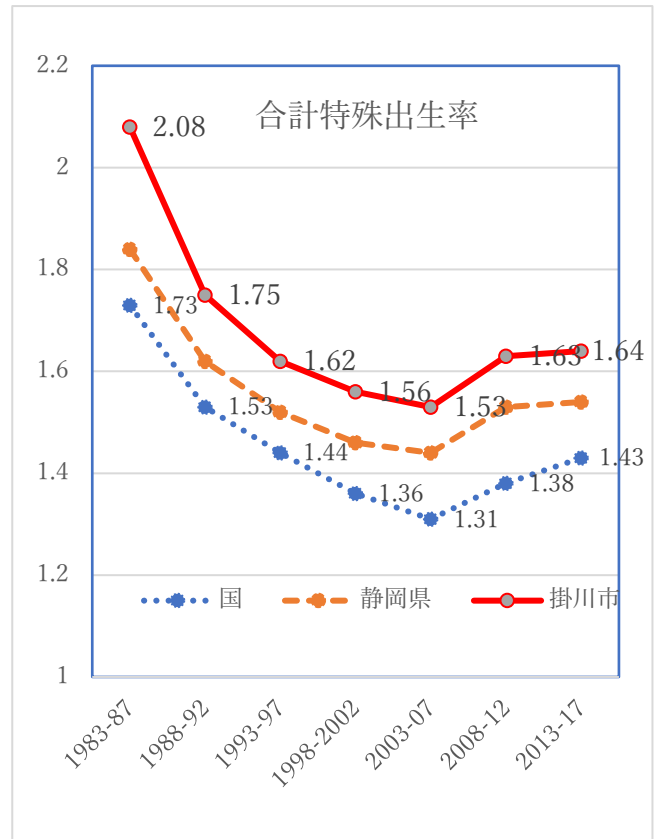
### ①<自然動態の増加>

#### 子育て環境の充実による人口維持

掛川市では「こども希望課」を設置し、子育てコンシェルジュ事業を充実させるなど、待機児童ゼロや、ニーズにあわせた子育て環境の充実を図ってきた。この政策により、掛川市の合計特殊出生率は1.64人であり、全国平均1.43人、静岡県平均1.54人と比較して高い水準を保っている。

そのため、これまで進めてきた子育て政策をさらに充実させることで、合計特殊出生率を段階的に上昇させていくことを目標とする。

【参考】内閣府：希望出生率1.8人の実現  
「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」  
「少子化社会対策大綱」



### ②<社会動態の増加>

#### 産業を軸とした転入者・定住者の増加

掛川市には、大中小企業の連携による基盤の強い産業構造があり、コロナ前は市内の産業に関わる日本人・外国人人口の転入が増加していた。しかし、コロナの影響により、市内企業の撤退、派遣社員（日本人・外国人）の雇止め、外国人技能実習生の帰国や受け入れ停止により、転出者の増加が続いている。

そのため、コロナ後には、掛川市のアクセスのよい立地を活かしたこれまでの産業基盤構造をベースとしてさらに拡充を進めるとともに、新産業の積極的な受け入れにより、市内の工業・農業・商業をさらに活性化し、コロナ前の転入者の増加傾向を目標とするとともに、定住につながるまちづくりを進める。

#### 【目標人口算出のための指標】

- ①自然動態：合計特殊出生率、生残率
- ②社会動態：移動率

